

**第10回日本薬学生連盟
日本横断新入生歓迎会!!**

**今年、北海道・東北・北陸・関東・東海・
関西・中四国・九州で新入生歓迎会を開催!!**

【日程】

4月29日：神戸 5月13日：名古屋 5月20日：仙台 5月27日：東京
6月3日：金沢 6月17日：福岡 6月24日：広島 6月30日：北海道

**新歓のスタートは
関西から!**

4月29日、日本薬学生連盟主催の関西新歓が開催されました。当日の参加者は80人と昨年の人数を大きく上回りました。スタート時は初めて会う人、初めて入る場所……新歓開始前の会場には、緊張感や期待感など

様々な感情が入り乱れ、そわそわした感じが感じ取れました。しかし、オープニング後に行われたアイスブレイキングで会場の雰囲気は一気に和みました。内容は自分の名札の裏に書いてある動物を人間の言葉を使わず、その鳴き声や動作だけで表現し、同じ動物同士

のグループを作るというものでした。参加者は自分をさらけ出したことで、緊張感もほぐれました。

今回のワークショップは、森の中にある『100人の村』に薬学生のグループがタイムスリップするという設定で行いました。100人の村で未知の感染症が発生し、参加者はあらゆる条件の中、どの選択が正しいのか?などの意見を出し合い、グループの意見にまとめました。自分には考えもつかな



関西での参加者

いような意見、その意見に納得したり、時には自分の意見を聞いてもらったりと、相手がいてくれるからこそ、できるひとときを楽しむことができました。新歓としては、事例は難しいものでしたが、ゲーム感覚で入り込み、自分の医療観を発表し、また人の医療観を感じることもできました。



関東での参加者

活動したくなる各委員会の説明ブース!



公衆衛生委員会の熱いブース

ワークショップ後、日本薬学生連盟の委員会説明が行われました。ブースに分かれ、限られた時間の中でより自分たちの活動を知ってもらおうと、『熱く』語ってくださる委員長の方々、そしてその話に『熱い』視線を向ける参加者の方々。会場にはそんな『熱い』一体感が生まれていたように感じました。

**全国各地では様々な種類の
ワークショップを開催!**

神戸では『100人の村』の事例を作成し、ワークショップを行いました。名古屋では『将来に向けて何ができるか?』を熱く語り合いました。仙台では『東北で行いたい薬学生の活動』についてオープンスペーステクノロジーという手法を用いて行い、東京では『薬学生が活動する意味とは何か?』を語り合いました。

金沢では後町陽子先生を講演者として迎え、『活動を将来にどう生かすか?』について話し合ったりしました。広島ではPCEと



ワークショップ後のパーティーは盛大に!

いう患者との服薬指導のロールプレイングを、川添哲嗣先生をお呼びして開催したり、九州でも別のワークショップを用意したりと、その土地の薬学生に合ったワークショッ

プを地域連携委員長である橋本由李さんが考案して開催しています。

開催したワークショップは、後にHPで方法などを公表し、加盟団体や全国の薬学生が後に活用できるようにする予定です。

新歓だけで終わらせない! ゴールデンウィークの献血推進運動!

私たちは、新歓終了から1週間も経たない5月4、5日にJ R京橋駅前で公衆衛生委員会のプロジェクトである「献血推進運動VAMPIREキャンペーン」を開催しました。献血への若者の関心の低さをうかがわせる統計結果が出回る中、「若者であり医療系学部の学生である私たちにできることがあるのではないか?」と思い、今回のイベントを開催しました。

活動内容は、献血バスへの呼び込み、チラシの配布、献血に協力してくださった方へのインタビュー、アンケートの実施が主なものでした。若い人たちにも献血に関心を持ってもらおうということで、スタッフはバンパイアやメイドさんなどのコスプレをして、若者の目をひく工夫をしました。

ほかにも、ティッシュと一緒にチラシを配りました。チラシの内容は『献血で集められた血液は、不慮の事故で使われる割合が多いと思われがちですが、実はそれは全体の3%。ほかは、病気の治療などの輸血に使われるのです!』というものです。また、献血をされた方には血液検査の生化学検査項目の1つであるグリコアルブミンについて簡単な資料を作成し、説明させていただきました。

通常、京橋での献血者数は平均40人ほどですが、様々な工夫もあり、VAMPIREキャンペーンの結果、1日目には91人、2日目は93人、計184人と驚異的な数の方が献血バスに足を運んでくださいました。

地域の人たちとの交流を通じて、コミュニケーション能力の向上を図ると共に、普段大学で勉強していることをアウトプットする経



バンパイアやメイド、女子高生のコスプレで献血呼び込み

験を持つことで、勉強へのモチベーション向上にもつながったと思います。改善すべき点も多く見つかりましたが、今回の活動を基盤とし改善点を見直し、パッケージ化することで、全国にもこの活動を広げていきたいと考えています。

報告者：京都薬科大学 藤本祥代

日本薬学生連盟の活動に興味を持った方は、ぜひ日本薬学生連盟へご連絡ください!

事務局：secgen@apsjapan.org
HP：http://apsjapan.org
Twitter：@APS_Japan

日本薬学生連盟 (APS-Japan)

〒106-0032 東京都港区六本木3-6-8
谷川ビル 2F

Email:apsjapan@apsjapan.org
HP: http://apsjapan.org